

履修年度	2020
講義コード	DJ211
授業科目	体育実技II(水泳を含む。)
Course title	
担当教員	塩瀬 圭佑
Instructor	SHIOSE KEISUKE
授業形態	実習
単位	1
対象学年	1 年
開講日	前期集中
ナンバリングコード	112DJ21 (基礎) 中主免専攻保健体育科専修
キーワード	

授業概要

本講義は、水泳の基本的な技術の習得を目指して行う。具体的には、クロール、平泳ぎなどの基本四泳法を正しいフォームで泳げることになると、および、各泳法のスタートやターンなどの水泳の指導に必要な基本的知識を身につける。また、水泳の事故を防ぐための安全管理についても学習する。

育成する資質・能力(ディプロマ・ポリシーとの関連)

資質・能力	説明
人間性・社会性・国際性	使命感・倫理観： 小学校・中学校・小中一貫校の教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる。 チームワーク： 将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる。 個と多様性の尊重： 個と多様性を尊重し、小学校・中学校・小中一貫校の教員に必要な教育的愛情を持って児童・生徒に接することができる。
主体的に学ぶ力	主体的に学ぶ力： 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
コミュニケーション能力	言語リテラシー： 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 児童・生徒理解： 学校教育の基礎的諸理論に基づき、児童・生徒の実態を把握することができる。 生徒指導・学級経営： 児童・生徒の実態に即した生徒指導及び学級経営に取り組むことができる。
課題発見・解決力	情報リテラシー： 情報通信技術（ＩＣＴ）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる。 課題解決力： 課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる。 総合的な教育実践力： 自他の教育実践を省察して、自己の課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる。
知識・技能	文化・社会・自然・地域の理解： 人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。 教育の基礎理論に関する知識： 学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。 ＊教科等の内容に関する知識・技能： 各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる。 教科等の指導法に関する知識・実践力： 小学校・中学校・小中一貫校の教育課程や指導法に関する知識及び技能を児童生徒の実態に応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる。

学習目標

身につける資質・能力

水泳の基本的な技術を身につける

基本的な技能を演示できるようになる

教科書内容及び指導法に関する知識の習得

授業計画

回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第1回	4月27日(月)	ガイダンス	講義内容の整理(60分)	webclassによる遠隔授業(課題の提示とアンケート回答)
第2回	7月6日(月)	泳力チェック	講義内容の整理(60分)	
第3回	7月6日(月)	水中運動・水中安全について	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	

授業計画				
回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第4回	7月13日(月)	クロール(キック)	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	
第5回	7月13日(月)	クロール(プル)	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	
第6回	7月20日(月)	クロール(呼吸技術)	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	
第7回	7月20日(月)	クロール(コンビネーション)	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	
第8回	7月27日(月)	泳力テスト(クロール)	講義内容の整理(60分)	
第9回	7月27日(月)	平泳ぎ(キック)	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	
第10回	8月3日(月)	平泳ぎ(プル)	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	
第12回	8月3日(月)	平泳ぎ(呼吸技術)	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	
第11回	8月10日(月)	平泳ぎ(コンビネーション)	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	
第13回	8月10日(月)	泳力テスト(平泳ぎ)	講義内容の整理(60分)	
第14回	8月17日(月)	背泳ぎ・バタフライ	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	
第15回	8月17日(月)	背泳ぎ・バタフライ	講義内容の復習(情報収集と技能の実践)(60分)	

成績評価方法			
評価手段	実施内容	評価比率	学習目標との対応
実技テスト	クロール50mのタイム、及び平泳ぎ3分間泳	60%	1, 2
小テスト	水中安全や水泳の技能に関する小テスト	10%	2, 3
履修状況	実技の習得過程に対する評価を行う	30%	1, 3

成績評価基準
成績は秀・優・良・可・不可の評語を用いて表し、それぞれの成績評価基準及び対応する評点を、各教員が定める科目の到達目標に従って次のように定める。
秀：科目の到達目標に特に優秀な水準で達している(評点:90点以上) 優：科目の到達目標に優秀な水準で達している(評点:89～80点) 良：科目の到達目標に良好な水準で達している(評点:79～70点) 可：科目の到達目標に必要最低限の水準で達している(評点:69～60点) 不可：科目の到達目標の必要最低限の水準に達していない(評点:59点以下)

教材
使用しない

教科書				
ISBN	書名	著者	出版社	価格
使用しない				

参考書				
ISBN	書名	著者	出版社	価格
9784469268638	水泳指導教本 三訂版	日本水泳連盟	大修館書店	2640

参考URL	
サイト名	URL
参考資料	
オフィスアワー	
木 14:00以降	
関連する授業科目	
体育実技I～VIII	
履修上の注意	
2回目以降の講義日は7月上旬を予定するが、気温等により前後する可能性がある。 詳細な開始日はwebclass等を通じて事前に通知する。 受講に際し、競泳用水着、または指導者として教育現場に相応しい水着の着用が望まれる。 また必要であれば各自でゴーグル(水中メガネ)を準備すること。	